

共立女子第二中学校

2020年度

入学試験問題（1回AM）

【 国 語 】

試験時間 50 分

【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一～三で、全部で9ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督かんとくの先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

いまの中国がまさにそうであるように、巨大な物欲が消費を促し、企業はそこから利潤を上げ、その①が労働者にも還元されて、さらなる②に結びつく。これが成長社会の典型的なパターンだ。モノが人を幸せにした時代である。しかし、と私は学生たちに問いかける。「君たちはテレビが五センチ薄くなつて幸せか？」家電量販店の店頭に並ぶ様々な新製品は、格好良かったり、便利であったりはするけれど、万人が幸福になるようなものではない。もはや私たちは、モノだけでは幸せにならない時代に生きている。格好良さは人それぞれに違うから、大ヒット商品は生まれにくい。このところ相次いで発表される家電各社の巨額の赤字の背景はここにある。

人びとはバラバラなままで生きていく。価値観は多様化する。ライフスタイルは様々になる。それは悪いことではないだろう。日本人はこれからどんどんと、バラバラになっていく。しかし、人間は社会的な生き物なので、バラバラだけでは生きていけない。私たちはどうしても、社会生活を営んでいくうえで、地域社会で決めていかななくてはならないことがある。いままでは、少なくとも一九八〇年代までは、遠くで(霞が関で)、誰かが(官僚が)決めてくれていたことに、何となく従っていれば、いろいろ小さな不都合はあったとしても、だいたい、みんなが幸せになれる社会だった。A、いまは、自分たちで自分たちの地域のことについて判断をし、責任を持たなければならぬ。その判断を誤ると、夕張市のように自治体でさえも潰れる時代が来てしまったのだ。

ただ、この一点が変わったために、日本人に要求されているコミュニケーション能力の質が、いま、大きく変わりつつあるのだと思う。いままでは、遠くで誰かが決めていることを何となく理解する能力、空気を読むといった能力、B 集団論でいえば「心をつなぐ」「一致団結」といった価値観をつつにする方向のコミュニケーション能力が求められてきた。しかし、もう日本人はバラバラなのだ。C、日本のこの狭い国土に住むのは、決して日本文化を前提とした人びとだけではない。D、この新

しい時代には、バラバラな人間が、価値観はバラバラなままで、どうにかしてうまくやっていく能力が求められている。私はこれを、「協調性から社交性へ」と呼んできた。「平田君は、自分の好きなことは一生懸命、集中して頑張るけれども、どうも協調性に欠けるようです」と小学校一年生から通信簿に書かれてきたような人間が、作家や芸術家になる。私自身、自分の好きなことしかやって

こなかったし、協調性はないものと自覚している。しかし、演劇は⑥芸術なので、演劇人には「社交性」はあるのだ。私たちは、幕が下りるまではどんな嫌な奴とでも、どうにかして仲良くする。プロの世界などはひどいもので、舞台上では、「あなたがいなければ死んでしまうわ」と言っているだけでも、楽屋に帰ればそっぽを向いている連中もたくさんいる。それでいい舞台ができるのなら、私としてはまったくかまわない。これもまた「社交性」だ。

しかしこの社交性という概念は、これまでの日本社会では「上辺だけのつきあい」「表面上の交際」といったマイナスのイメージが付きまとった。私たちは、「心からわかりあう関係を作りなさい」「心からわかりあえなければコミュニケーションではない」と教え育てられてきた。しかしもう日本人は心からわかりあえないのだ……と言ってしまうと身もふたもないので、たとえば高校生たちには、私は次のように伝えることにしている。「心からわかりあえないんだよ、すぐには」「心からわかりあえないんだよ、初めからは」この点が、いま日本人が直面しているコミュニケーション観の大きな転換の本質だろうと私は考えている。

⑧心からわかりあえることを前提とし、最終目標としてコミュニケーションというものを考えるのか、「いやいや人間はわかりあえない。でもわかりあえない人間同士が、どうにかして共有できる部分を見つけて、それを広げていくことならできるかもしれない」と考えるのか。

「心からわかりあえなければコミュニケーションではない」という言葉は耳に心地よいけれど、そこには、心からわかりあう可能性のない人びとをあらかじめ排除するシマ国・ムラ社会の論理が働いてはいないだろうか。

実際に、私たちは、パレスチナの子どもたちの気持ちはわからない。アフガニスタンの人びとの気持ちはわからない。しかし、わからないから放っておいていいというわけではないだろう。価値観や文化的な背景の違う人びとも、どうにかして共有できる部分を見つけて、最悪の事態である戦争やテロを回避するのが外交であり国際関係だ。好むと好まざるとにかかわらず、国際化する社会を生きていかなければならない日本の子どもたちに、より必要な能力はどちらだろう。もちろん⑩⑪がなくていいとは言わないが、日本の子どもたちは世界標準から見れば、まだまだ⑫⑬は強い方だ。ならばプラスアルファの能力として、これからの教育が子どもたちに授けていかなければならないのは、この「⑫⑬」の方なのではないか。

「平田オリザ『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』」

問一 ①・②に、あてはまる語句として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 生産 イ 利潤 ウ 消費 エ 労働

問二 ③「モノだけでは幸せにならない時代」とありますが、その理由を示す一文を本文中より十字でぬき出しなさい。（句読点などがあれば一字とします）

問三 A Dに、あてはまる語として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ だから ウ さらに エ あるいは

問四 ④「協調性」・⑤「社交性」とありますが、どのような能力か、それぞれ本文中より二十字以上三十字以内で探し、はじめと終わりの五字をぬき出しなさい。（句読点などがあれば一字とします）

問五 ⑥に、あてはまる語句として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 集団で行う イ 経費のかかる ウ 個性を重んじる エ 伝統的な

問六 ⑦「身もふたもない」とありますが、その意味として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア その言動を裏づける根拠こんきよがないこと。 イ 本音とたてまえとを使い分けること。

ウ 真実と嘘うそをないまぜにして話すこと。 エ 言動があらさまで風情ふうせいがないこと。

問七 ⑧「心からわかりあえることを前提とし」とありますが、そのマイナス面として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 心からわかりあえることだけを最終目標にするのは安易であるということ。

イ 心からわかりあえることはとても難しいので実現の見通しが持てないこと。

ウ 心からわかりあえる可能性のない人びとを最初からのけ者にしがちなこと。

エ 心からわかりあえる仲間と出会ったとしてもいさかいは避けられないこと。

問八 ⑨「国際化する社会」とありますが、最悪の事態を防ぐうえで大切なことを本文中の語句を使って三十字以内で説明しなさい。

問九 ⑩に、あてはまる語句の組み合わせとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア ⑩協調性 ⑪個別性 ⑫社交性
イ ⑩協調性 ⑪集団性 ⑫社交性
ウ ⑩社交性 ⑪個別性 ⑫協調性
エ ⑩社交性 ⑪集団性 ⑫協調性

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

〔本文は、宝が剣道の団体戦に初めて参加する時に、あげはと会話をする場面である。〕

絹先生が試合に出るメンバー一人一人にいていねいなアドバイスを伝えている。とりあえず自分も、絹先生に言われたとおり戦おう。そうすればたとえ負けても、ひどく責められはしないだろう。

「宝くん」

「はい」

「宝くんは始めの合図がかかったら、自分から大きな声を出して、相手より先に打ちかかってごらんなさい」
初心者の子にかけるような言葉に、一瞬、返事をためらう。それでもどうにかうなずくと、

「次、善太くん」

あれっ？

やる気いっぱいの返事をする善太の隣で、宝は A 口を開けた。

① ぼくへのアドバイス、あれだけ？

試合は、市民体育館の中にある武道場で行われる。そこから廊下をはさんで向かい側、畳敷きの柔道場が、控え室として開放されていた。ミーティングを終えた宝は、選手とその保護者で混み合う中をすり抜け、一人で隅っこに座った。

絹先生は、なんであれだけしか言わなかったのかな。

うつむいて、両手で目の横を覆う。そのまましばらくじっとしていると、ざわめきの中に近づいてくる軽い足音が聞こえた。

「宝くん、大丈夫？」

B、と下から顔が現れ、思わずのけぞる。

「あつ、おどろかせてごめんね。具合悪いのかな、と思つて」

あげはが宝の隣に座る。 C している胸を押さえ、宝は首を振った。

「緊張、してるだけ。試合、苦手で」

試合場の外から注がれる様々な視線も、試合相手から飛んでくる激しい殺気も怖い。でもなにより苦手なのは、勝利という結果を周りから求められることだ。

勝てなくても、技をうまく出せたり受けられたりすれば、自分はそれで満足なのに。

「怖いときこそ、自分から攻めていきなさいって、前に絹先生が言つてたよ。ね、がんばろ？ 宝くんなら、きっと勝てるよ」
そう言われても。無理だよ。うなだれ、両手を顔の横まで上げかけて、あわてて下ろす。

「宝くんって、たまにそうやって目かくしするね。まぶしい？」

あげはが先ほどの宝と同じように、両手を左右の目尻に添える。

「ううん。落ち着くから」

「落ち着く？」

「面をつけてるみたいで」

視界が手にさえぎられて狭まり、影で少し暗くなる。面をつけている状態に近くなつて、安心するのだ。そのぶん集中もしやすくなる。

②「宝くんは面かあ。わたしは、このヘアピンかな。つけると落ち着くし、『よし』って気合が入るの。剣道やるときは外さないといけないけどね」

あげはが左耳の上の、あの蝶々のヘアピンを指す。絹先生の畑で落としたそれを善太が渡すと、あげはは飛び上がり、何度もお礼を言った。見つけられてよかったと、宝は善太のかげで D した。

「わたしね、自分の名前苦手だったんだ。きらいじゃないけど、ちょっとかわいすぎっていうか、わたしには似合わないかなーって。きらきらネームだって男子に何回もからかわれたし、それですっごいけんかしたこともある」

眉を寄せてヘアピンを一本外し、先端の蝶を見つめる。宝は突然始まった名前の話にとまどいつつ、うなずいた。どんな理由でも、自分の名前をからかわれるのは悲しい。

「でね、そのことを善太に話したら、『きらきらしてる、すげーいい名前ってことだろ？　なんで怒んだよ』って言われたの。善太、きらきらネームの意味わかってなかったんだよね」

あげはは声を出して笑い、宝もつられた。それはすごく、善太らしい。

「でも、その考え方、いいなって思った。きらきらって、本当はきれいな言葉だもんね。だから決めたの。『あげは』ってきらきらの名前が、ちゃんと似合う自分になるって。それから使い始めたんだ、このヘアピン」

「すごい」

「名前負けしてる」と言われて怒ることもできず、そうかも、とあっさり受け入れてしまった自分とは、なんというちがいだろう。すっかり感心する宝の前で、「善太にはないしょね」とあげはが人差し指を立てる。その指先がかすかに震えていることに、今気づいた。

もしかして、あげはも ⑦ しているのか。

それでも、宝を心配して、こうしてそばに来てくれたのか。

「あ、あの」

「宝くんもすごいよ」

あげはは立ち上がると、宝を見つめ、はにかんだように笑った。

「面をつけたときとか、^{*}抜き胴決めたときとか、^⑧きらきらだよ」

きらきら？

おどろく宝に小さく手を振り、あげはは控え室を出ていく。その姿が見えなくなったとたん、宝の頭の中に四方八方から星が降った。^⑨な、なんか、ますます緊張してきた。

〔落合由佳『流星と稲妻』〕

*抜き胴 〓 剣道の技の一つ。相手が面を打ちにきた時に、体を移動してかわし胴を打つこと。宝の得意技の一つ。

問一

A

D

 にあてはまる語として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ひよい イ ばくばく ウ ぽかんと エ ほっと

問二 ① 「ぼくへのアドバイス」とありますが、このアドバイスからわかる、宝に足りないものとは何ですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア どうすれば相手よりも上手うまくなるか考える向上心
イ どうかして相手に勝つてやろうとする負けん気
ウ 何事にも自分から働きかけていこうとする積極性
エ 今の自分に何が足りないのかを考える冷静な視点

問三 ② 「宝くんは面かあ。わたしは、このへアピンかな」とありますが、「面」や「へアピン」は本人たちにとってどのような存在ですか。最も適するものを次から選び、記号で答えなさい。

ア つらい記憶だからこそ、変わろうとするきっかけを思い出させてくれるような存在
イ 緊張してしまった時に気持ちをほぐし、力を発揮できるおまじないのような存在
ウ どうすればよいか迷うとき、いつも進む道を示してくれるおみくじのような存在
エ 自信のない自分に安心感を与え、前を向こうと思わせてくれるお守りのような存在

問四 ③ 「突然始まった名前の話」とありますが、なぜあげはは名前のお話を始めたのですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア どんな事も努力すれば乗り越こえることができると伝えたかったから。
イ すぐ逃にげるのではなく取り組むことの大切さを伝えようとしたから。
ウ 自分の失敗談を話し、固かたくなっていく宝の心をほぐそうとしたから。
エ 自分のつらい過去を話すことで一いっしょ緒に頑がん張ろうと伝えたかったから。

問五 ④と⑧「きらきら」とありますが、それぞれにこめられている気持ちを、解答らんに合うように説明しなさい。

問六 ⑤「それはすごく、善太らしい」とありますが、善太の性格を説明した文として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 世の中で流行っている言葉を知らず、それを全く隠さない性格

イ 困っている人にもさりげなく思いやり助けることのできる性格

ウ だれに対しても強く言うことができずにごまかしてしまう性格

エ 言葉の含みには気づかず、何事も素直に物事を受け止める性格

問七 ⑥「すごい」とありますが、だれのどのようなところを表現しているのか解答らんに合うように自分の言葉で説明しなさい。

問八 ⑦にあてはまる語を、本文中より二字でぬき出しなさい。

問九 ⑨「な、なんか、ますます緊張してきた」とありますが、これはなぜですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア あげはから努力不足だと指摘され、何としても勝たなくてはならないと思ったから。

イ あげはが一緒にいてくれて安心していたのに、再び一人にされて不安になったから。

ウ 自分も団体戦のメンバーの一人として、あげはから認められていると気づいたから。

エ 大事な試合前なのに、あげはに意味の分からないことを言われて混乱しているから。

三、次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の□にあてはまる語を漢字一字で答えなさい。なお、それぞれ二つの□には同じ漢字が入ります。

- ① □のさいそく・□もたてもたまらない
② □の車・□を見るより明らか
③ 水と□・□を売る
④ □が合う・□の耳に念仏

問二 次の①～④の季語が表す季節として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① まめまき ② ひな祭り ③ こどもの日 ④ 月見

ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

問三 次の①～④の熟語が類義語の関係になるように、□にあてはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- ① 公正 || 公□ ② 未来 || □来 ③ 進歩 || □上 ④ 欠点 || □所

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 費用を負擔する。 ② 暴れた象をなだめる。 ③ 疑う余地がない。 ④ 貴重なお話をうかがう。

問五 次の①～④の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① 司会をツトメル。 ② 会社にシユウシヨクする。 ③ 日本国ケンポウを学ぶ。 ④ 遠回しにヒテイする。